

2022年度 第3四半期決算 カンファレンスコール

2023年2月6日
取締役CFO
半田 宗樹

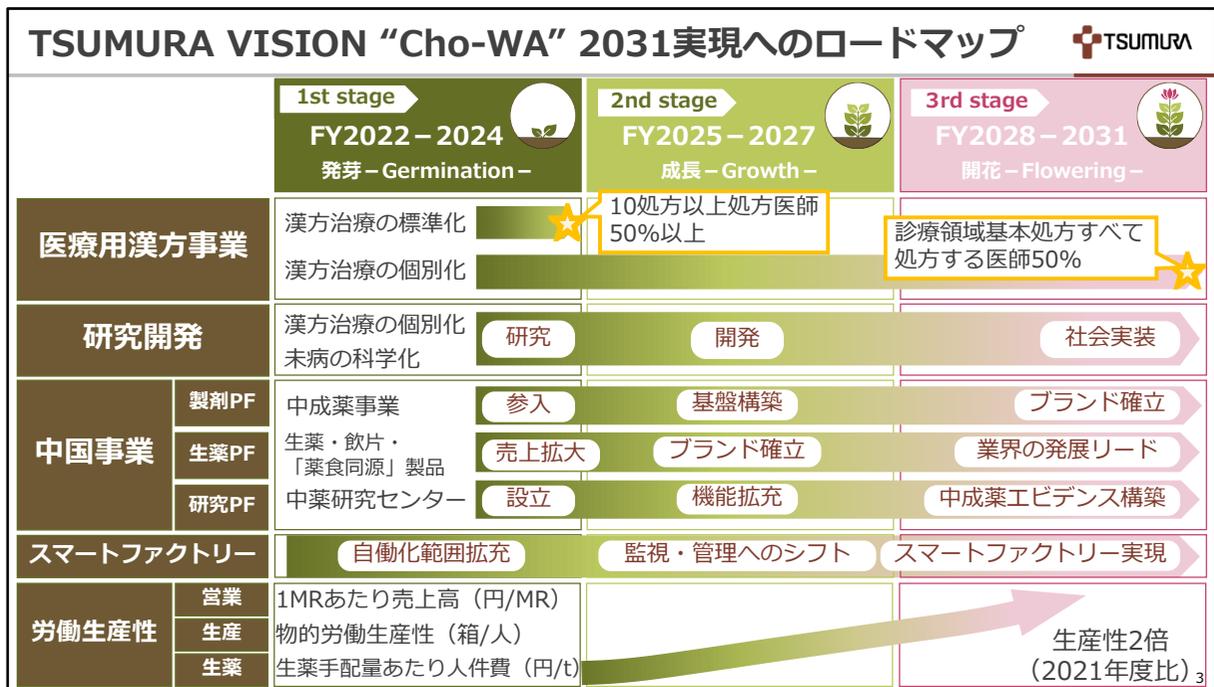
01 2022年度 第3四半期決算概況

02 国内事業、中国事業の取り組み、進捗状況

03 2022年度 業績予想

2ページは、本日の内容です。

2022年度第3四半期の決算概況、
国内事業、中国事業の取り組み、進捗状況
2022年度業績予想についてご説明いたします。



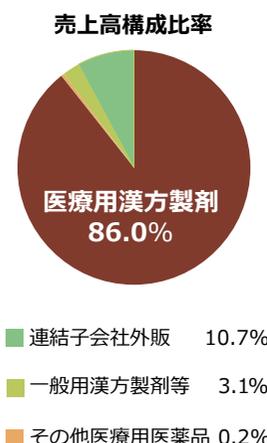
3ページは、昨年5月に発表しました
 TSUMURA VISION “Cho-WA” 2031実現へ向けたロードマップです。

2024年度までの第1期中期経営計画は、
 ビジョン実現に向けた先行投資・基盤構築を行うステージと
 位置付けております。

2022年度 第3四半期 決算概況

【百万円】	2021年度 3Q実績	2022年度 3Q実績	前年同期比	
			金額	増減率
売上高	98,382	107,076	+8,694	+8.8%
国内事業	-	96,355	-	-
中国事業	-	10,721	-	-
営業利益	18,829	17,723	△1,106	△5.9%
国内事業	-	17,882	-	-
中国事業	-	△159	-	-
経常利益	21,074	21,410	+335	+1.6%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	15,389	15,875	+486	+3.2%
PL換算レート* (円/元)	16.78	19.41	+2.63	-

※海外子会社PL取込時のレートであり、原料生薬の輸入レートとは異なる



4

4ページは、2022年度 第3四半期決算の概況です。

売上高は1,070億7千6百万円で、前年同期比 8.8%伸長しました。
内訳は国内事業が963億5千5百万円、
中国事業が107億2千1百万円でした。
売上構成比は右の円グラフの通りです。

営業利益は前年同期比5.9%減少し、177億2千3百万円、
経常利益は、前年同期比1.6%増加の、214億1千万円、
親会社株主に帰属する四半期純利益は、
前年同期比 3.2%増加の158億7千5百万円となりました。

決算のポイント



国内・中国事業の伸長により増収、四半期純利益は増益（営業利益は減益）

売上高	107,076	百万円	前年同期比	+8.8%
<ul style="list-style-type: none"> ■ 国内事業 医療用漢方製剤（129処方）：91,941百万円 前年同期比 5.3%伸長 <li style="padding-left: 20px;">一般用漢方製剤等 ：3,358 百万円 前年同期比 18.8%伸長 ■ 中国事業 ：10,721百万円 				
営業利益	17,723	百万円	前年同期比	△5.9%
営業利益率	16.6	%	前年同期比	△2.5pt
<ul style="list-style-type: none"> ■ 原価率：50.9% 前年同期比 +2.1pt：主に中国外部販売増、生薬以外の原資材高騰の影響 ■ 販管費率：32.5% 前年同期比 +0.4pt：主に天津工場の本稼働に向けた一時費用等 				
経常利益	21,410	百万円	前年同期比	+1.6%
<ul style="list-style-type: none"> ■ 海外子会社への貸付金等に係る為替差益：2,906百万円 前年同期比 +1,485百万円 円安の影響 				
親会社株主に帰属する 四半期純利益	15,875	百万円	前年同期比	+3.2%
<ul style="list-style-type: none"> ■ 特別利益：関係会社の有償減資による払戻差益：463百万円 				

5

5ページは、決算のポイントです。

国内事業の医療用漢方製剤129処方の売上高は、前年同期比5.3%伸長の919億4千1百万円でした。

計画していたe-プロモーションの効果による伸長に加えて夏場の猛暑による熱中症・夏バテ処方、COVID-19の感染拡大に伴う発熱・咳等の風邪関連処方、後遺症患者数の増加により咳・倦怠感・不安等に関連する処方が伸長しました。

これにより当社の想定を大きく上回る需要が発生したことから、医薬品卸・代理店様のご協力のもと、昨年8月29日より一部品目を限定出荷とさせていただいております。限定出荷の状況につきましては、後ほどご説明いたします。

一般用漢方製剤等は、薬局やドラッグストアにて取扱店舗数の拡大とCOVID-19関連処方の伸長により前年同期比18.8%伸長の33億5千8百万円でした。

中国事業売上高は、生薬プラットフォームにおける原料生薬の販売拡大により107億2千1百万円となりました。

売上原価率は50.9%で、前年同期比+2.1ptとなりました。主に中国事業の外部販売の増加と、生薬以外の原資材の高騰によるものです。

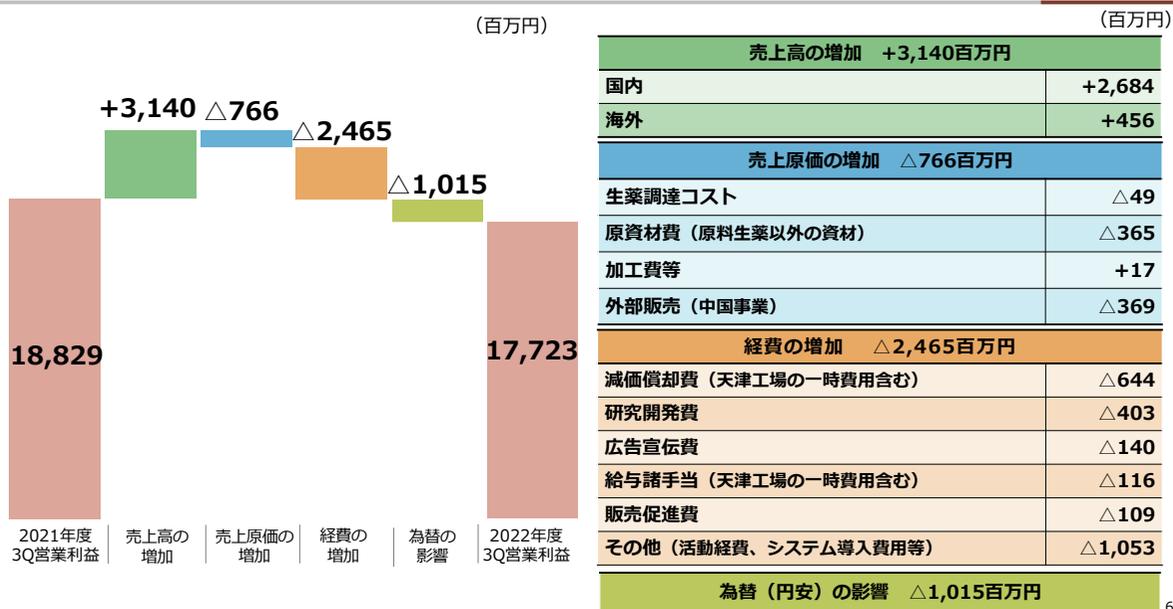
販管費率は32.5%で、前年同期比+0.4ptとなりました。主に天津工場の本稼働に向けた一時費用によるものです。

その結果、営業利益は前年同期比5.9%減少し、177億2千3百万円となりました。

経常利益の増加は円安による在外子会社への貸付金に係る為替差益の影響です。また、特別利益として、関係会社の清算に伴う関係会社有償減資払戻差益を4億6千3百万円計上しております。

以上により、親会社株主に帰属する四半期純利益は前年同期比3.2%増加し158億7千5百万円となりました。

営業利益の増減要因（前年同期比）



6ページは、営業利益の増減要因です。
ポイントのみご説明いたします。

営業利益は、前年同期比で11億円減少し、177億円でした。
売上高増加による影響はプラスの31億円でした。
内訳は、国内でプラス26億円、海外でプラス4億円です。

売上原価の増加による影響はマイナス7億円でした。
主な内訳は中国事業外部販売の増加でマイナス3億円、
生薬以外の原資材の高騰でマイナス3億円でした。

経費増加による影響はマイナス24億円でした。

主に天津工場の稼働に向けた一時費用として
減価償却費や給与諸手当等が増加し、
その影響額はマイナス10億円でした。

円安による影響額はマイナス10億円でした。
主に海外子会社の販管費の為替換算による影響です。

財政状態 および キャッシュ・フロー

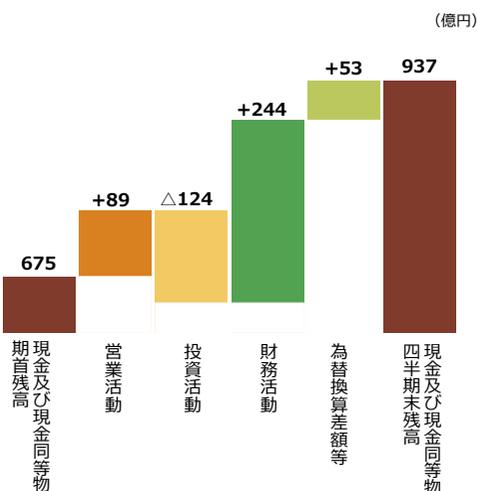


(百万円)

社債発行 300億円 (2022年9月8日)

	2021年度 (2022.3)	2022年度 3Q	増減額
資産合計	350,981	400,958	49,977
流動資産	229,420	270,962	41,542
固定資産	121,561	129,995	8,434
負債合計	92,871	121,276	28,404
流動負債	45,875	43,696	△2,179
固定負債	46,996	77,580	30,583
純資産合計	258,109	279,682	21,572
自己資本比率	68.3%	64.3%	△4.0pt

	2021年度 (2022.3)	2022年度 3Q	増減額	内、為替
棚卸資産計	92,751	101,079	8,327	7,528
商品及び製品	10,247	9,077	△1,169	406
仕掛品	13,614	14,072	457	236
原材料及び貯蔵品	68,889	77,929	9,040	6,886



7ページは、財政状態およびキャッシュ・フローです。
こちらポイントのみご説明いたします。

流動資産は415億円増加しました。
主な内訳は、社債発行に伴う現金及び預金が261億円の増加、
棚卸資産が主に為替換算の影響で83億円の増加です。

固定資産は、主に天津津村の工場建設に伴う設備投資と
IT基盤刷新に伴うシステム関連投資の影響により84億円増加しました。

固定負債は、9月に実施した300億円の社債発行により増加しました。

これにより、自己資本比率は4.0pt低下し、64.3%となりました。

キャッシュ・フローは、右側の滝グラフのとおりです。

01

2022年度 第2四半期決算概況

02

国内事業、中国事業の取り組み、進捗状況

03

2022年度 業績予想

2つ目の国内事業、中国事業の取り組み、進捗状況について
ご説明いたします。

製品の供給状況

- 猛暑による季節性処方的大幅な需要増（前年同期比 150%）
- COVID-19による風邪関連処方の需要急増（前年同期比 130~300%）
- ※ 上海ロックダウンに伴う上海工場の稼働停止による減産（2022/3/21~5/5）
→BCP（事業継続計画）に基づき、国内工場での代替生産を実施

2022年8月29日から一部品目を限定出荷 ※現行では、28品目が限定出荷

限定出荷の解除に向けた対応

- 人員の増強 各工場（茨城、静岡、上海）にて生産人員を増員
- 稼働日数の増加 従来からの3交替24時間連続操業に加え、休日出勤、春節時の稼働など
- 稼働能力の向上 品目切り替え時間の短縮など
- 天津工場の出荷開始時期前倒し バリデーション完了および製造所追加の承認取得の早期化

3月末～ 順次解除の見通し ※ただし、インフルエンザ流行、COVID-19の感染拡大の状況により変動の可能性あり

9

9ページは、製品の供給状況についてです。

限定出荷に至った要因としましては、
1点目が夏場の猛暑による清暑益気湯等の季節性処方的大幅な需要の増加、
2点目がCOVID-19オミクロン株の感染者急増に伴い風邪関連処方の需要の増加、
さらには、COVID-19後遺症である咳・倦怠感に対応する処方について、
当社の想定を大きく超える受注が発生しました。

背景には、上海ロックダウンにより約1か月半の間、上海工場が稼働停止したことでの減産の影響もありました。

このような要因により、医療機関での新規採用や大量発注で流通在庫が偏在するリスクへの懸念や、治療中の患者様への安定供給に支障をきたす状況となりました。

治療継続中の患者様への供給、代替処方がない製品の安定供給を優先するという方針のもと、2022年8月29日より一部品目を限定出荷とさせていただきました。

限定出荷解除に向けては、生産能力を増強するための対応をしております。

具体的には、各工場での人員の増強、休日出勤による稼働日数の増加、品目切り替え時間の短縮等による稼働能力の向上、稼働準備を進めている天津工場の出荷時期の前倒しに取り組んでおります。

限定出荷解除については、生産計画とCOVID-19の感染者数の推移やインフルエンザの流行等の状況により決定する方針です。
現時点では、3月末以降に順次解除の見通しです。

引き続き全社一丸となって、安定供給に向けた生産体制の整備に尽力してまいります。

天津工場立ち上げの進捗



1期はプロセスバリデーション（PV）を実施中で、2023年度4Qに出荷開始予定
PV完了および製造所追加の承認取得の早期化により出荷開始時期前倒しを目指す

■ 天津工場の概要

建設目的	国内事業向けの漢方エキス粉末（中間製品）の増産 製造拠点を日本2拠点（茨城、静岡）、中国2拠点（上海、天津）へ増加
会社名	天津津村製薬有限公司
場所	中国 天津市
投資額	1期：約150億円 2期：約100億円 3期：約150億円
生産能力	2,250t/年 ※3期までがフル稼働した時点



■ 1期立ち上げのスケジュール



■ 製造費用の会計処理

- ・ 試運転開始～PV開始まで
→ 販管費
- ・ PV開始以降
→ 棚卸資産・原価

10

10ページは、生産能力の増強に向けた天津工場立ち上げの進捗です。

国内事業向けの中間製品である漢方エキス粉末の増産に向けて天津工場の建設を進めております。

漢方市場の更なる拡大を見据え、天津工場は1期から3期工事までを予定しております。最終的には上海工場の規模を上回り、中国における最大の生産拠点となります。

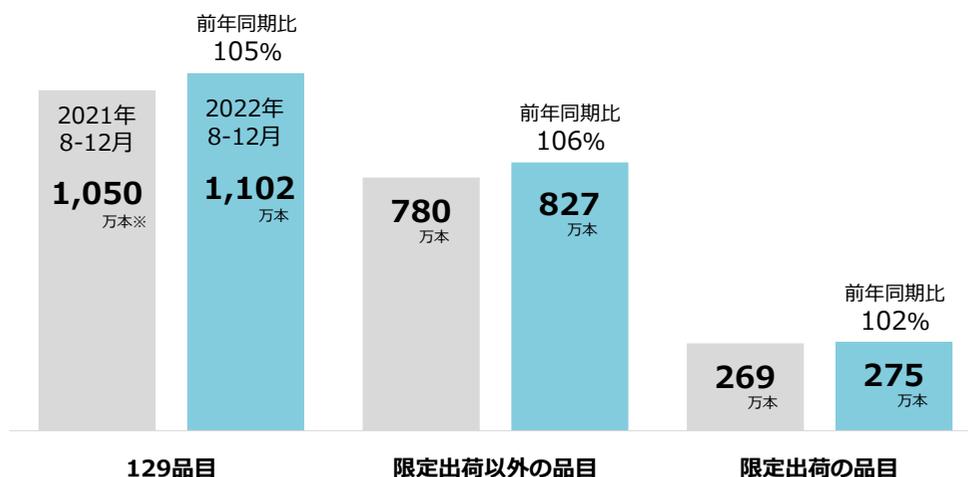
1期については、既に竣工し、現在は承認の取得に向けたプロセスバリデーションを実施中です。

現時点では2023年度4Qの出荷開始を予定しておりますが、プロセスバリデーションの早期完了と承認の早期取得により、出荷開始時期の前倒しを目指してまいります。

今後も自動化技術の積極的な導入に加え、目視確認や機械操作をAIへ置き換え、検査作業の自動化等を進めることで、工場の作業人員削減を目指してまいります。

更には生薬選別等の上流工程においても、自動化に関する技術開発を進め、バリューチェーン全体の自動化、無人化による生産性向上に向けて取り組んでまいります。

限定出荷後においても、医療用漢方製剤129品目は105%を維持



※1本：標準包装1箱（1箱は9週間分入）

11ページは、限定出荷後の医療用漢方製剤の出荷量です。

昨年8月から一部品目を限定出荷とさせていただいておりますが、医療用漢方製剤129品目は前年同期比105%の出荷量を維持しており、そのうち、限定出荷品目は102%の出荷量です。

治療継続中の患者様へお届けできるよう、前年同期以上の数量を出荷することとしており、引き続き増産に努めてまいります。

薬価ベースでは 3.3% の伸長（前年同期比）、限定出荷の影響により伸長率が鈍化



Copyright © 2022 IQVIA. 「JPM 2021年4月～2022年12月」をもとに当社が独自に集計 無断転載禁止 12

12ページは、医療用医薬品市場との比較です。

病院と一般診療所の全販路における、薬価ベースでの前年同期比の伸長率を示しております。

当社は、第2四半期までは市場を上回って推移しておりましたが、限定出荷の影響により、第3四半期の伸長率は市場と同水準の+3.3%となりました。

限定出荷品目を除いた伸長率は+5.5%でした。

医療用医薬品市場は、COVID-19の感染拡大によりその治療薬や検査キットなどが市場を押し上げました。

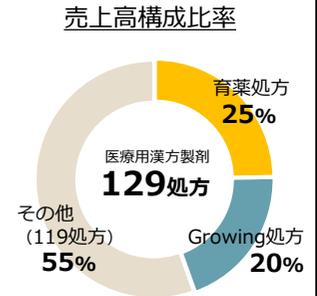
販路別の比較は、appendixに掲載しております。

育薬処方・Growing処方 売上高



(百万円)

	売上 順位	製品No. / 処方名	2021年度3Q	2022年度3Q	前年同期比	
育薬 処方	1	100 大建中湯	7,334	7,482	+147	+2.0%
	3	54 抑肝散	5,678	5,687	+9	+0.2%
	4	43 六君子湯	5,548	5,644	+96	+1.7%
	8	107 牛車腎気丸	2,687	2,633	△54	△2.0%
	24	14 半夏瀉心湯	1,052	1,078	+26	+2.5%
育薬処方合計			22,301	22,527	+225	+1.0%
Growing 処方	2	41 補中益気湯	5,655	6,096	+441	+7.8%
	5	17 五苓散	4,111	4,821	+710	+17.3%
	6	24 加味逍遙散	3,752	3,935	+183	+4.9%
	16	108 人參養栄湯	1,488	1,624	+135	+9.1%
	17	137 加味帰脾湯	1,332	1,600	+267	+20.1%
Growing処方合計			16,340	18,078	+1,738	+10.6%
育薬・Growing処方以外の119処方合計			48,650	51,335	+2,684	+5.5%
医療用漢方製剤129処方合計			87,293	91,941	+4,648	+5.3%



※牛車腎気丸は2022年8月より限定出荷

13

13ページは、医療用漢方製剤の育薬・Growingの処方別売上高です。

医療用漢方製剤129処方の売上高は919億円で、前年同期比5.3%伸長しました。

育薬処方においては、限定出荷の影響により、前年同期比1.0%の伸長に留まりました。

Growing処方は、五苓散、補中益気湯、加味帰脾湯が大きく伸長したことから、前年同期比10.6%の伸長となりました。

五苓散については、循環器領域での講演会開催などの施策により伸長を継続しております。

補中益気湯、加味帰脾湯については、COVID-19後遺症の症状に関連する倦怠感や精神不安・不眠などのニーズに対応し、伸長を続けております。

その他119処方の売上高は前年同期比5.5%伸長の513億円でした。7月、8月の猛暑による食欲不振、夏やせ等の季節性の症状に使われる処方やオミクロン株の流行拡大による、風邪関連処方が伸長しました。

COVID-19の感染者増加により風邪関連処方需要が高まる



14ページは、COVID-19による風邪関連処方への影響です。

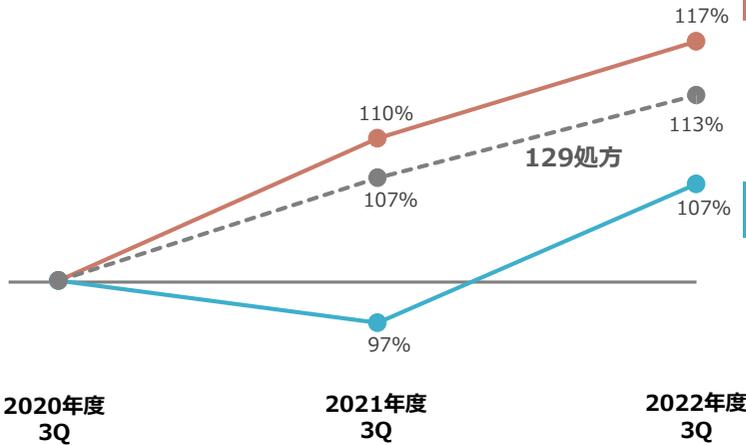
COVID-19感染者増加に伴い、風邪関連処方の需要が高まりました。

オミクロン株 BA.5による感染が拡大した7月から9月においては、代表的な風邪関連4処方が夏場としては特異的な需要となりました。

その後は感染者の減少により一時的に需要が落ち着いたものの、BA.5の派生型による感染が拡大した11月以降は、再び高い需要となっております。

COVID-19に関連する症状に対して処方され、風邪処方についても回復

(出荷数量ベース：伸長率)



✓ 生活環境変化により増加 →

- 不安感、不眠 (6処方)
- 倦怠感 (2処方)
- めまい (2処方)
- マスク着用による肌荒れ、にきび (4処方)

✓ オミクロン株の流行により増加 →

- 風邪、インフルエンザなど (13処方)

15ページは、COVID-19による影響です。

COVID-19に関連して生じる様々な症状に対して処方されており、マスクの着用や外出自粛等により減少していた風邪処方も回復してきております。

生活環境の変化に伴い生じる、不安感、不眠、倦怠感、めまい、肌荒れ、にきび等の症状に対応する14処方は医療用漢方製剤129処方の伸長数量を大きく上回る伸長となっております。

COVID-19オミクロン株による後遺症については、従来のデルタ株に比べて睡眠障害の症状を訴える人の割合が増えていると言われており、「不安・不眠」に関連する処方は、2020年度比で120%の伸長となっております。

代表的なものとしては、Growing処方の1つである加味帰脾湯です。

漢方薬の使い分けに関する情報提供ニーズに対応した仕組みを構築

e-プロモーション

メディカルサイトの拡充

- ・ 漢方薬の使い分けセミナー
- ・ 漢方オンラインサロン など



MR活動

処方化、定着化に向けた活動

- ・ 漢方カスタムファイル
による使い分け提案
- ・ 講演会、研究会の開催 など



【第1期中計における目標】

漢方薬を10処方以上
使い分けされる医師を
50%以上へ

16ページは、
医療従事者一人ひとりにあった漢方ソリューションの提供です。

限定出荷により、対象品目のプロモーション活動は一部制限させていただいております。

その一方で、漢方薬の症状別の使い分けに関する情報提供ニーズは高く、当社メディカルサイトでシリーズ化して配信している、

「漢方の知っておきたい使い分けセミナー」への参加者は増加しております。

そのセミナー内で解説に使用しているリーフレットを症状別にファイリングした、「漢方カスタムファイル」の提供依頼も増えております。

第1期中期経営計画において目標としている

「漢方薬を10処方以上使い分けされる医師を50%以上」の達成に向けて、医療従事者一人ひとりが必要とする情報を最適なチャネルから適切なタイミングで入手、ご活用いただける仕組みを構築しております。

中国事業のマイルストーン



海外売上高比率50%を目指し、中薬業界の発展をリードする中薬企業へ

FY2022 – 24

FY2025 – 27

FY2028 – 31

製剤PF

中成薬事業への参入

中成薬企業のM&A
古典処方の申請

中成薬事業の基盤構築

外部販売比率50%超

中成薬企業として ブランド確立

業界TOP10

売上イメージ

70億円以上

生薬PF

生薬・飲片・「薬食同 源」製品の売上拡大

外部販売比率
50%超

生薬・飲片・「薬食同 源」製品のブランド確立

公立病院販路の拡大
(M&Aを含む)

業界の発展をリード する生薬・飲片企業

中国トップシェア

売上イメージ

30億円以上

研究PF

中薬研究センター設立

中薬研究センター 機能拡充

中成薬エビデンス構築

17

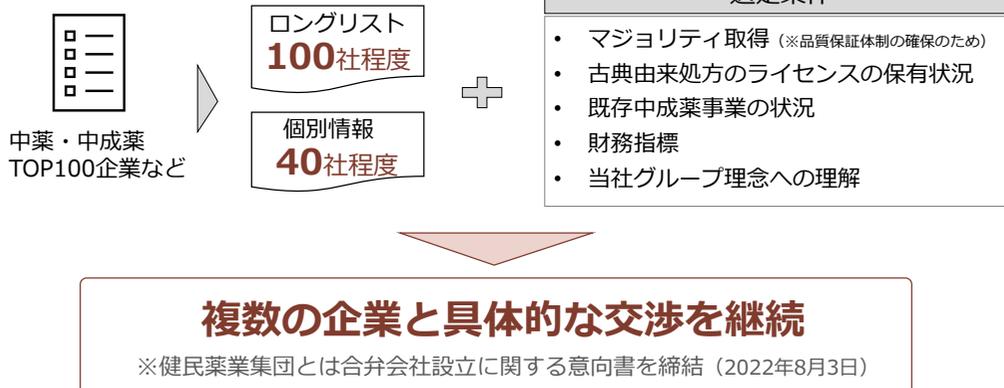
17ページは、中国事業のマイルストーンです。

中国事業は製剤PF、生薬PF、研究PFの3つのプラットフォームで事業展開を進めており、TSUMURA VISION “Cho-WA” 2031において、海外売上高比率50%を目指し、中薬業界の発展をリードする中薬企業となることを掲げております。

【第1期中計における目標】

中成薬事業への参入：中成薬企業のM&A、古典処方の上市申請

中成薬企業M&Aのプロセス



18ページは、製剤PFによる中成薬事業への参入に向けた取り組みです。

第1期中期経営計画においては、中成薬企業のM&Aを早期に実施し、中成薬事業の基盤構築を図ることを目標としております。

M&Aにおいては、マジョリティの取得や古典処方の権利の保有状況、当社グループ理念への理解等の選定条件に合致することを条件としており、現在も複数の企業と具体的な交渉を継続しております。

できる限りの早期結実を目指して、交渉を進め、公表ができる段階になりましたら速やかにご報告させていただきます。

【第1期中計における目標】

生薬・飲片・「薬食同源」製品の販売拡大による売上高CAGR30%成長



<p>原料生薬</p>	<p>競争力の高い品目の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> 人参ブランドNo.1 優位品目の拡大 GACP管理強化 業界標準策定のリード
<p>飲片 (刻み生薬)</p>	<p>高品質飲片ブランド確立</p> <ul style="list-style-type: none"> 公立病院販路の拡大 平安健康販路の拡大 飲片サービスの推進
<p>「薬食同源」製品</p>	<p>新製品の開発促進ブランド構築</p> <ul style="list-style-type: none"> 高付加価値製品の開発 オンライン販路の拡大 信頼されるブランド構築

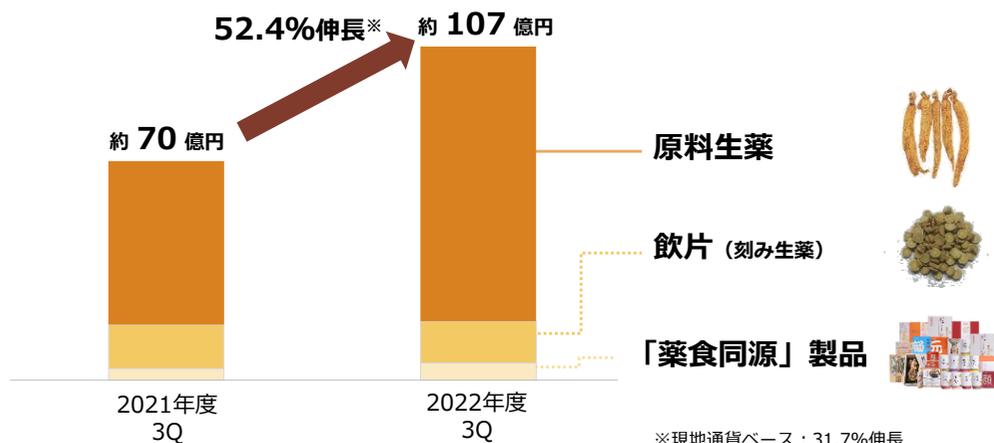
19

19ページは、生薬プラットフォームの事業拡大の取り組みです。

生薬プラットフォームにおいては、第1期中期経営計画ではCAGR30%の売上高伸長を目指しております。

生薬プラットフォームの事業は、右側にお示ししている原料生薬、飲片、「薬食同源」製品の3つのカテゴリーで構成しており、それぞれの戦略に基づき販売活動を推進しております。

- 原料生薬を中心に売上高が伸長
- COVID-19の感染者が一時増加したが、日本向けの原料生薬および漢方エキス粉末（中間製品）の供給および中国事業の販売への影響はなし



20ページは、中国事業売上高の状況です。

中国事業売上高は原料生薬を中心に販売が拡大したことにより前年同期比52.4%伸長し、約107億円となりました。

原料生薬においては、品質を起点とした営業活動を推進し、新規顧客の開拓および既存顧客における販売品目数の拡大に成功したことにより高い伸長率が継続しております。

飲片については主要な販路である平安健康の事業戦略変更の影響により既存製品の販売が減少しております。

一方、中長期的に拡大を目指している公立病院販路については、コロナ渦においても順調に伸長しております。

平安健康のニーズに合わせた製品開発に加え、公立病院販路の開拓を進めていくことで、販売を拡大してまいります。

昨年12月のゼロコロナ政策の変更により、COVID-19の感染が拡大しております。

当社の中国関係会社の社員においても感染者が一時的に増加しましたが、勤務シフトの見直しなどにより正常稼働を継続できております。

日本向けの原料生薬、中間製品である漢方エキス粉末の供給および中国事業の販売への大きな影響は現時点ではありません。今後の状況を引き続き注視してまいります。

01

2022年度 第1四半期決算概況

02

国内事業、中国事業の取り組み、進捗状況

03

2022年度 業績予想

最後に、2022年度業績予想についてです。

2022年度 業績予想（変更なし）



【百万円】	2021年度 実績	2022年度 予想	前年比	
			金額	伸長率
売上高	129,546	138,500	+8,953	+6.9%
国内事業	—	124,300	—	—
中国事業	—	14,200	—	—
営業利益	22,376	20,800	△1,576	△7.0%
国内事業	—	21,200	—	—
中国事業	—	△400	—	—
経常利益	25,904	21,200	△4,704	△18.2%
親会社株主に帰属する 当期純利益	18,836	15,000	△3,836	△20.4%
配当金 （1株あたり）	64 円	64 円		
EPS	246.2 円	196.1 円		
ROE	8.2 %	6.0 %		

（注）為替影響（営業外損益）については、為替相場の状況から、合理的に算定することが困難であるため、業績予想には織り込んでおりません。

22

22ページは、2022年度通期の業績予想です。

今年度は限定出荷の影響が継続するため、年初計画から変更はございません。

売上高については、1,385億円の予想です。

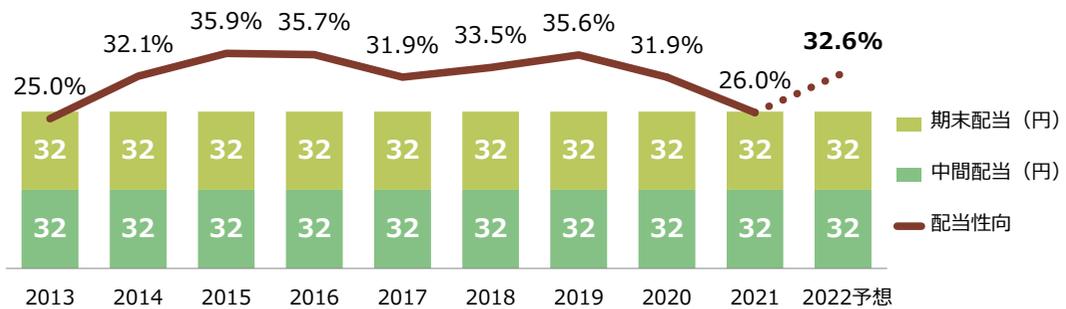
売上原価については、原資材の高騰が継続しており、想定より悪化する可能性があります。販管費を適切にコントロールすることで、営業利益212億円の達成を目指してまいります。

なお、営業外損益については為替相場の状況から、合理的に算定することが困難であるため、業績予想には織り込んでおりません。

仮に円安が継続した場合には為替差益が発生し、経常利益および親会社株主に帰属する当期純利益を押し上げる可能性がございます。

方針

- 国内事業の持続的な拡大と中国事業の成長投資および基盤構築を通じて、企業価値の向上を図る
- 中長期の利益水準やキャッシュフローの状況等を勘案し、安定配当を実施する



(注) 2022年度期末配当金・配当性向(予想)は、第87回定時株主総会による配当議案決議が前提の予想数値を記載

最後に、株主還元についてです。

国内における漢方事業の持続的な拡大に加え、特に、中国事業におけるM&Aなどへ成長投資を行い、中国事業基盤の強化を通じて企業価値の向上に努めさせていただきます。

中長期的な利益水準やキャッシュフローの状況等を勘案し、安定配当を実施させていただく方針です。

引き続き、ご支援賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

ご清聴ありがとうございました。

コーポレート・コミュニケーション室

I R推進グループ

investor_madoguchi@mail.tsumura.co.jp

見通しに関する注意事項

- 本発表において提供される資料ならびに情報は、いわゆる「見通し情報」を含みます。これら見通しを実現できるかどうかは様々なリスクや不確実性などに左右されます。したがって、実際の業績はこれらの見通しと大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。
- 日本ならびにその他各国政府による医療保険制度や薬価等の医療行政に関する規制の変更や、金利・為替の変動により、業績や財政状態に影響を受ける可能性があります。
- 現在発売している主要製品が、万が一製品の欠陥、予期せぬ副作用などの要因により、販売中止となったり、売上が大幅に減少したりした場合、業績や財政状態に大きな影響を及ぼします。

Appendix

医療用医薬品市場との比較

